

次世代高齢者サービスを支えるライフログデータバンク

図書館情報メディア系 准教授 上保 秀夫

- 多くの市町村が高齢者サービスの高度化を求めている
- 高齢者の地域性や個別ニーズに対応するためのデータが欠如
- ライフログデータを高齢者サービスに活用する仕組みを提案



データ収集実績

東京都(4名・30日)
茨城県(20名・3ヶ月)
千葉県(4名・3ヶ月)

連携可能分野

情報検索・推薦技術
データ可視化技術
テキスト生成技術
プライバシー保護技術
モバイルアプリ開発
学習教材開発
ヘルスケアサービス
みまもりサービス
FinTechサービス
...

外部資金

- 日本学術振興会受託研究「高齢者の生活行動データベースの構築および可視化による振り返り学習の実践」(代表:筑波大学図書館情報メディア系・溝上智恵子)
- 日本学術振興会科学研究費助成事業「社会参画をめざす高齢者のためのデータリテラシー学習プログラムの開発」(代表:筑波大学図書館情報メディア系・溝上智恵子)

ライフログとは

個人の様々な行動データをデジタル形式で蓄積したものの継続的なデータ収集が前提
本プロジェクトでは特に高齢者でも持続可能なライフログサービスを研究し複数エリアで実証しています

ライフログ
データバンク

時系列データ例

位置情報・POI・移動手段
睡眠時間・活動量・心拍数
天気・気温・湿度

次世代高齢者サービス:ヘルスケア・生涯学習・防災・趣味娯楽・資産管理、等

Difference

- 従来のサービス設計:アンケートやヒアリングを基にした定性的データ
- 次世代のサービス設計:ライフログ技術を基にした定量的・長期的データ

連絡先 ①研究内容:上保秀夫
hideo@slis.tsukuba.ac.jp

②産学連携:後藤秀利
goto.hidetoshi.fw@un.tsukuba.ac.jp

③事務局:産学連携企画課
tlo@ilc.tsukuba.ac.jp